

令和6年2月食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和6年3月28日発行

1 実施概要

| | |
|-------|---|
| ■実施日時 | 令和6年2月15日（木）、16日（金） |
| ■作業場所 | 秋田市総合環境センター |
| ■作業時間 | 8：30～17：00（昼食休憩1時間、準備片付け含む） |
| ■作業体制 | 秋田市職員のべ15名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査） |
| ■調査資料 | <ul style="list-style-type: none">・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【2月15日】 中央（檜山11袋）、東部（東通10袋）、西部（新屋元町又は日吉町5袋）、南部（御所野8袋）、北部（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和（河辺4袋） 【2月16日】 中央（川尻6袋、大町6袋）、東部（添川4袋、旭川4袋）、西部（新屋勝平町6袋）、南部（上北手8袋）、北部（飯島12袋）、河辺・雄和（雄和4袋）・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約122kgとした。 |

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表1）、6地区の100袋の合計重量は、349.0kg、1袋あたりの平均重量は約3.5kgであった。地域別に見ると、①中央は23袋で78.0kg、②東部は18袋で67.7kg、③西部は11袋で37.9kg、④南部は16袋で63.4kg、⑤北部は24袋で71.1kg、⑥河辺・雄和は8袋で31.0kgであった。

図表1 調査対象とした試料概要（秋田市）

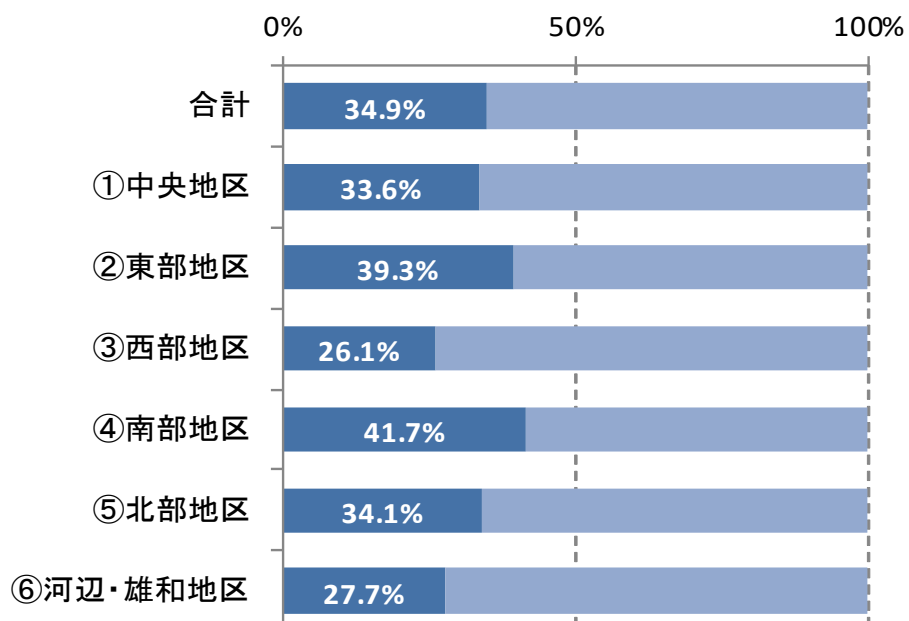
| | 袋数（個） | 重量（kg） | 容量（L） | 袋あたり | |
|---------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | | | 重量（kg） | 容量（L） |
| 合計 | 100 | 349.0 | 3,610 | 3.5 | 36.1 |
| ① 中央 | 23 | 78.0 | 870 | 3.4 | 37.8 |
| ② 東部 | 18 | 67.7 | 685 | 3.8 | 38.1 |
| ③ 西部 | 11 | 37.9 | 375 | 3.4 | 34.1 |
| ④ 南部 | 16 | 63.4 | 530 | 4.0 | 33.1 |
| ⑤ 北部 | 24 | 71.1 | 805 | 3.0 | 33.5 |
| ⑥ 河辺・雄和 | 8 | 31.0 | 345 | 3.9 | 43.1 |

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表2）、6地区の合計割合では、34.9%となっている。

地域別に見ると、④南部が最も高く41.7%、次いで②東部の39.3%、⑤北部の34.1%、①中央の33.6%、⑥河辺・雄和の27.7%、③西部の26.1%となっている。

図表2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



| | サンプリング試料 A | うち、食品廃棄物 B | 食品廃棄物割合 C (=B/A) | 食品廃棄物以外 D (=1-C) |
|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------------|
| 合計 | 349.02 | 121.92 | 34.9% | 65.1% |
| ①中央 | 77.95 | 26.18 | 33.6% | 66.4% |
| ②東部 | 67.73 | 26.64 | 39.3% | 60.7% |
| ③西部 | 37.86 | 9.88 | 26.1% | 73.9% |
| ④南部 | 63.42 | 26.42 | 41.7% | 58.3% |
| ⑤北部 | 71.08 | 24.21 | 34.1% | 65.9% |
| ⑥河辺・雄和 | 30.98 | 8.59 | 27.7% | 72.3% |

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

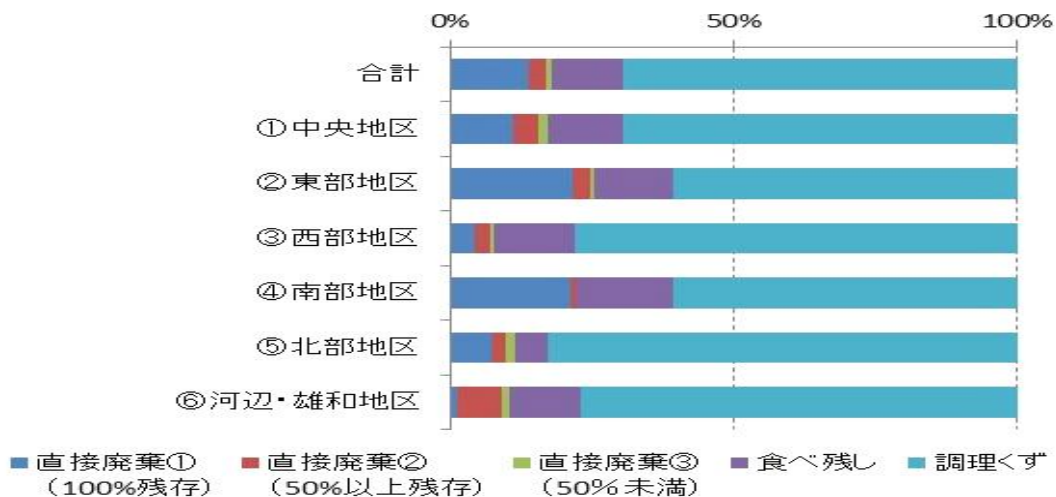
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計割合では28.7%となっている。

地区別に見ると②東部が最も高く38.1%、次いで④南部の37.5%、①中央の28.4%、⑥河辺・雄和の22.0%、③西部の17.3%、⑤北部の16.2%となっている。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち13.0%を占めており、②東部で20.7%と高く、次いで④南部が20.4%、①中央が10.5%、⑤北部が7.0%、③西部が3.5%、⑥河辺・雄和が1.3%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計割合では11.9%となっており、④南部が16.1%と高く、次いで②東部が13.8%であり、⑤北部が最も低く5.4%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



| | 食品ロス割合 | うち直接廃棄（手付かず） | | | うち食べ残し |
|--------|--------|--------------|---------|---------|--------|
| | | 100%残存 | 50%以上残存 | 50%未満残存 | |
| 合計 | 28.7% | 13.0% | 2.8% | 1.0% | 11.9% |
| ①中央 | 28.4% | 10.5% | 4.1% | 1.6% | 12.2% |
| ②東部 | 38.1% | 20.7% | 2.9% | 0.7% | 13.8% |
| ③西部 | 17.3% | 3.5% | 1.9% | 0.7% | 11.2% |
| ④南部 | 37.5% | 20.4% | 0.9% | 0.0% | 16.1% |
| ⑤北部 | 16.2% | 7.0% | 2.2% | 1.6% | 5.4% |
| ⑥河辺・雄和 | 22.0% | 1.3% | 7.3% | 1.5% | 11.9% |

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

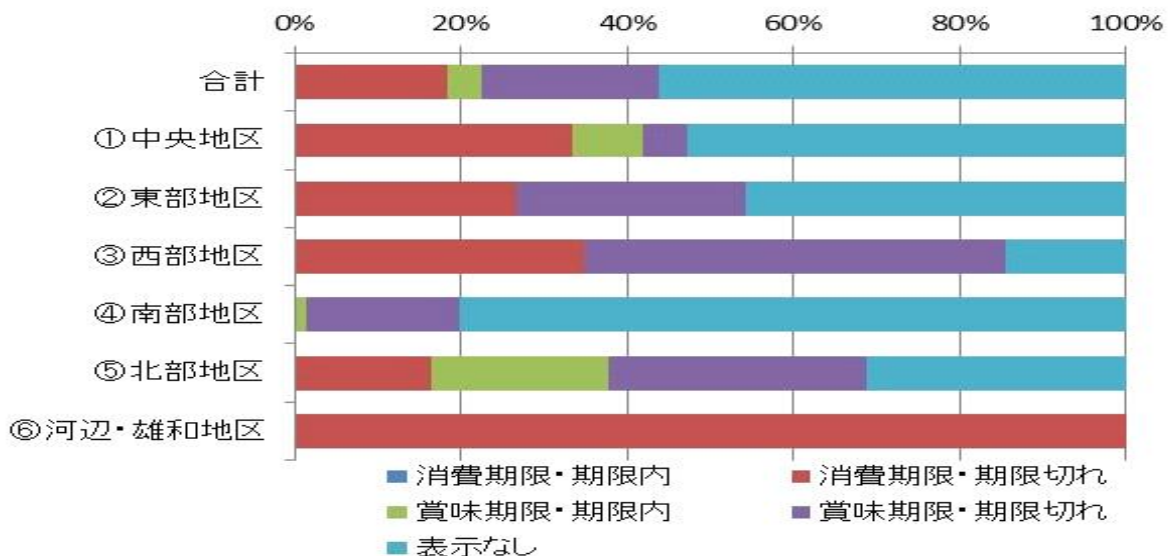
直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く56.1%であり、消費期限の表示があったものは18.3%（期限内0.0%、期限切れが18.3%）、賞味期限の表示があったものは25.6%（期限内が4.2%、期限切れが21.4%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限切れ」のみで直接廃棄（100%手付かず）のうち18.3%であった。

「期限切れ」については、⑥河辺・雄和で最も高く100.0%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち4.2%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く21.4%であった。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



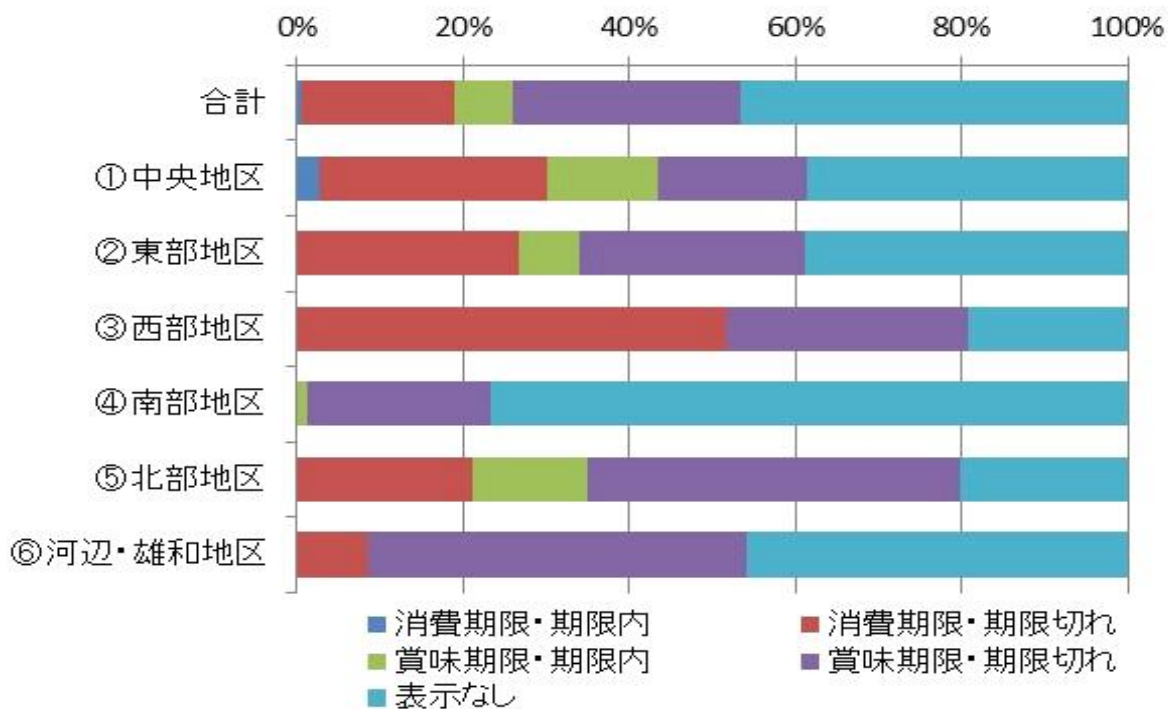
| | 消費期限 | | 賞味期限 | | 表示なし |
|--------|------|--------|-------|-------|-------|
| | 期限内 | 期限切れ | 期限内 | 期限切れ | |
| 合計 | 0.0% | 18.3% | 4.2% | 21.4% | 56.1% |
| ①中央 | 0.0% | 33.4% | 8.5% | 5.3% | 52.8% |
| ②東部 | 0.0% | 26.5% | 0.0% | 27.8% | 45.7% |
| ③西部 | 0.0% | 34.8% | 0.0% | 50.7% | 14.5% |
| ④南部 | 0.0% | 0.0% | 1.4% | 18.5% | 80.1% |
| ⑤北部 | 0.0% | 16.3% | 21.4% | 31.2% | 31.2% |
| ⑥河辺・雄和 | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く46.5%であり、消費期限の表示があったものは19.0%（期限内0.5%、期限切れ18.5%）、賞味期限の表示があったものは34.4%（期限内7.0%、期限切れ27.4%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち7.0%となっている。地区別に見ると⑤北部地区が最も高く13.8%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



| | 消費期限 | | 賞味期限 | | 表示なし |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 期限内 | 期限切れ | 期限内 | 期限切れ | |
| 合計 | 0.5% | 18.5% | 7.0% | 27.4% | 46.5% |
| ①中央 | 2.7% | 27.4% | 13.4% | 18.0% | 38.5% |
| ②東部 | 0.0% | 26.9% | 7.2% | 27.1% | 38.9% |
| ③西部 | 0.0% | 51.7% | 0.0% | 29.2% | 19.2% |
| ④南部 | 0.0% | 0.0% | 1.3% | 22.1% | 76.5% |
| ⑤北部 | 0.0% | 21.3% | 13.8% | 44.8% | 20.1% |
| ⑥河辺・雄和 | 0.0% | 8.4% | 0.0% | 45.8% | 45.8% |

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和4年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると49.8g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が29.1g/人/日、食べ残しが20.7g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

